

氏名：ジュリアン・ジーリ Julien GIRY



【個人情報】

生年月日：	1990年9月22日（34歳）
出身地：	フランス リヨン市
現住所：	福井県三方郡美浜町早瀬
扶養家族：	配偶者、子ども2人

【学歴】

2013年9月	エクス=マルセイユ・ジャーナリズム学院 修了 (École de journalisme d'Aix-Marseille) 情報コミュニケーション専攻 修士号取得
2011年6月	リヨン第2大学 卒業 (Université Lumière Lyon-II) 社会科学部 学士号取得
2008年6月	エドゥアール・エリオ高等学校 卒業 (Lycée Edouard-Herriot, Lyon) バカロレア（大学入学資格）優秀成績取得

【職歴】

2025年9月	一般社団法人クールジャパン協議会 専務理事として、 「COOL JAPAN AWARD 2025 表彰式」を大阪・関西万博会場内施設にて開催予定（2025年9月3日（水））
2024年12月	株式会社 TARGET JAMM において、福井県美浜町早瀬地区の築80年の古民家の改修プロジェクトを開始
2024年8月	株式会社 TARGET JAMM を福井県美浜町に設立、代表取締役役に就任
2024年5月～ (2021年2月～)	一般社団法人クールジャパン協議会 専務理事 一般社団法人クールジャパン協議会 理事・代表理事
2022年5月～ 現在	株式会社 TARGET INC. (大阪) の取締役就任。 インバウンド観光に関する助言、マーケティング戦略立案、観光ガイド及びツアーリーダーとして東京都内および全国観光地での外国人旅行者案内。クライアントの(株)Asia My Way Japan (東京)でのコンサルティング・旅行アドバイザー業務を実施し、フランスを中心としたヨーロッパ富裕層向け旅行企画販売、京都・大阪・美浜地域の観光

	ガイド業務、日本オフィス立ち上げ支援等を実施。
2019年～ 2020年	Vivre le Japon/Japan Experience (仏企業・パリ) 職務：旅行アドバイザー 職務内容：欧州富裕層向け日本旅行企画販売、市場分析 実績：年間売上高 1,025,057 ユーロ (約 1 億 5,000 万円) 達成
2017年～ 2018年	職務：フリーライター・ヨーロッパ PR 担当 職務内容：フランス語メディア対応、記事編集・配信管理、SNS マーケティング
2016年12月	「Nippon100」プロジェクトを開始。 なお、本プロジェクトは、2017年6月27日放映のテレビ東京「Youは何しに日本へ？」で取り上げら、番組を見ていたクールジャパン協議会の関係者からメールが届き、それをきっかけにクールジャパンアワードにジョイン。

#### 【その他の活動】

2016年1月～ 現在	フリージャーナリストとして活動 主な実績：LVMH 企業誌、France Sushi、Ouest-France 等への寄稿、旅行ブログ Nippon100.com 運営
2018年3月～ 現在	観光関連書籍著者として活動 主な実績：JNTO 協力による持続可能な観光に関する調査・執筆、日本の観光名所 100 選に関する書籍出版

#### 【著書】 ※原著はすべてフランス語

2022年2月	『Japon Guide Tao: Un voyage écolo et éthique』 (『日本エコ・エシカル旅行ガイド』(仮題)) (Viatao 出版社、JNTO 後援) 日本初のエコツーリズム・サステナブル観光ガイドブック 発行部数：5,000 部
2019年9月	『Les 100 objets du Japon』 (『日本のもの 100 選』) (Transboréal et Elytis 出版社) 現代日本を代表する 100 の品物を通じた日本文化論 発行部数：5,000 部
2018年10月	『Les 100 vues du Japon』 (『日本 100 景』(仮題)) (Transboréal et Elytis 出版社)

	<p>日本の観光名所を美しい写真 300 点以上で紹介 発行部数：8,000 部 ※2020 年 11 月増刷 ※2021 年 3 月イタリア語版出版（nuinui 出版社（イタリア））</p>
--	---

以上

## 自己紹介文

私はマルセイユ大学（エクス・マルセイユ大学）の傘下にあるマルセイユ・ジャーナリズム学校（EJCM）を卒業しました。このマルセイユ大学でオーレリーと出会いました。私たち二人は映像専攻（撮影とカメラの前での話し方）のジャーナリズム修士課程を修了しました。

その後、オーレリーと私は、フランス最大の発行部数を誇る日刊紙「ウエスト・フランス」（ル・モンドヤル・フィガロなどの発行部数を上回る）で数年間働きました。私は本社で、一般報道部門、国際部門、経済部門で勤務し、フィニステール県のモルレーで地方支局の編集も担当しました。ちなみにフランスでは、記者が写真を撮影するのは一般的で、私たちはその頃からジャーナリストと写真家の両方として働いていました。

ウエスト・フランスでの仕事の後、オーレリーと私は必ずしもジャーナリズムに縛られない形で、海外で暮らし、国際経験を積みたいと考えていました。そこで、英語圏ではなく、ヨーロッパから地理的にも文化的にも最も遠い日本に数ヶ月間滞在することを決めました。日本は他の先進国と最も異なる国で、私たちは新鮮な体験を求めていました。

最初の日本での滞在は6ヶ月間で、農場やカフェで数週間ずつ、ボランティア活動を行い、その合間に観光も楽しみました。東京から沖縄の離島・石垣まで、以下の場所でボランティア活動を行いました。

- 愛知県田原市の野菜農園
- 和歌山県海南市の養鶏・養豚場（3回訪問）
- 山口県周南市の果樹園（梨、ぶどう、ブルーベリー）
- 大分県由布市のカフェ
- 沖縄県大宜味村の酪農場
- 静岡県内の茶畑とわさび農場

当時は体を動かす仕事がしたく、農業や地方の課題についてより深く理解したいと考えていました。

日本では、想像をはるかに超える素晴らしい発見をしました。豊かな自然、地方での文化的・コミュニティ的な生活、お祭り、温泉文化、そして全国各地での質の高い農産物や食品などに魅了されました。

フランスに帰国後、私たちはこの文化をさらに探求し、日本に関連するプロジェクトを展開して、その魅力を共有したいと考えようになりました。

ボランティア活動の合間の観光中、観光プロモーションで様々なランキングへの言及（日本百名山、百選の川、三名泉など）に気づくことができました。調査を進めるうちに、読売新聞社発行の＜平成百景＞のリストの存在を知りました。

そこから、「Nippon100」というプロジェクトを構想しました。1年間日本に戻り滞在し、この＜平成百景＞の100か所を巡って自ら写真を撮影しそれらをレポートすること、それぞれの重要性を理解するというチャレンジでした。ボランティア活動中に約20カ所、主に有名な観光地を訪れていましたが、これら観光地での興味深い点としては、以下が挙げられます。

- 景色の4分の3が日本国外ではあまり知られていないこと
- 北海道から沖縄まで47都道府県に様々な景色があること
- 読売新聞社による全国投票で選ばれたものであること

フランスでクラウド・ファンディングを立ち上げてプロジェクトを周知し、2017年2月にワーキングホリデービザで日本に渡航しました。現地で少し仕事を見つけ、リモートライターとして働き、その後観光プロモーションのコンサルタントとして活動を広げながらフリーランスの仕事も続け、13ヶ月間の旅は主に私たちの貯金（約25,000ユーロ）で賄われました。

東京を拠点に13ヶ月間、ほぼ旅行と撮影・執筆に専念し、まずはNippon100のブログを更新していました。その後、出版社に連絡を取り、100景を巡り終えた後の本の出版にフランスの複数の出版社が興味を示してくれました。

同年5月にフランスに2週間帰国し、再来日後、「YOUは何しに日本へ？」（テレビ東京）の取材を受け、「日本から何を持ち帰りますか」というコーナーに出演しました。Nippon100について話し、番組は2017年6月26日に放送されました。その番組をクールジャパン協議会の関係者が見ていてメールをくださいました。確か9月頃だったと思いますが、東京に立ち寄った際に関係者と表参道のとんかつ「まい泉」で夕食を共にしました。その際にお話しいただいたテーマがとても魅力的で、日本という国についてもっと学べる良い機会になると考え、喜んでクールジャパンアワードに参加することにしました。

13ヶ月間の日本滞在の後にフランスに帰国し、出版社との作業に入り、原稿執筆に5ヶ月を費やしました。『Les 100 vues du Japon（日本100景）』は2018年10月に出版されま

した。（フランス語でフランス出版社による出版）

その後3ヶ月間、本の宣伝と販売のため、書籍フェアや日本文化イベントを巡りました。本の売れ行きが非常に良かったため、出版社からすぐに2冊目の提案があり、日本の「ものづくり」をテーマにすることが決まりました。

同時期に、私は観光業界へ転身し、世界最大の日本専門旅行会社（かつJRパスの世界一の販売実績を持つ）ジャパン・エクスペリエンスのパリ支社で旅行アドバイザーとして働き始めました。主にフランス語圏の富裕層やVIP向けの旅行プランの企画と販売を担当していました。

長女のNaomiが2019年7月に生まれ、2冊目の本は2019年9月の秋に出版されました。この時期に、専門出版社から日本のサステナブル・トラベルガイドの執筆プロジェクトが決まりましたが、コロナの影響で資金が途絶え、2020年9月に予定していた家族での日本行きも中止になりました。

コロナ禍で、私たちはモン・サン・ミシェル湾のある地域に定住することになり、古い家を購入して住みながら、少しずつ観光用の宿泊施設として改装を進めています。その間、地方自治体（モン・サン・ミシェル・ノルマンディー）で働き、この農村地域の経済発展、雇用問題、観光に関する事項を担当しました。息子のIwenが生まれたのはこの年2021年6月でした。

2022年9月ようやく日本に戻る機会が巡り、現在、私が所属している(株)TARGETの取締役として、東京で1年間ガイドとして、その後ツアーリーダー（2~3週間同じグループに同行）として、フランスを中心にヨーロッパの旅行会社の数社とのコネクションを構築しました。また、フランスの専門誌向けの日本関連記事の執筆を再開し、フランスの観光関連の様々なコンサルティング業務も行いました。

『Japon Guide Tao: Un voyage écolo et éthique』（『日本エコ・エシカル旅行ガイド』（仮題））は2022年初春にフランスで出版され、JNTO（日本政府観光局）パリ事務所が全面的に出資してくれました。その後、JNTOのフランス語版Instagramの運営とアドバイスの仕事をしました。

NaomiとIwenは東京都の渋谷区の保育園に通い始めました。私たちには海辺の地方都市・集落に移住する夢と子どもたちが日本とフランス、両方の文化的基盤を持てるよう、一定期間日本文化に浸ることを望んでいました。

そこで2023年9月に福井県美浜町早瀬の築80数年の古民家に移住することができました。この古民家を改装して宿のする計画を立ち上げまして、同じ早瀬エリアの別の古民家に引っ越しし現在、宿の改修リノベーションに取り組んでおります。

同時にフランス企業でフランスを中心にヨーロッパの富裕層向けにアジア旅行事業を展開するAsia My Wayをクライアントとして、日本法人設立・事業推進・ツアーデスク立ち上げ、海外旅行客の商品企画をコンサルするとともにガイド業務も必要に応じて実施しております。

特に2024年の夏から、福井県美浜町で観光ガイドとしての活動を始め、フランス語圏の観光客に日本の田舎や日本海沿岸地域を紹介しています。2024年にはFIT（外国個人旅行）のお客様が訪問され、合計で56名のお客様が地域の美浜町の民宿に宿泊されました。地域の経済や活力に貢献しながら、双方向の文化交流を促進することを目指しています。

現在もライター兼ジャーナリストとしての活動を続けており、2025年末に向けて、フランスの主要出版社から日本の歴史に関する新しい本の出版を予定しています。

また、LVMHの社内誌「Eyes」（年1回発行、4万部）などで執筆活動も行っています。2024年には、雑誌の20%を担当し、日本でのロエベ、イタリアでのブルガリ、そしてグループや各ブランドに関する2本の記事を執筆しました。

2025年には、フランスパビリオンのメインスポンサーであるLVMHグループのために、2025年万博の開幕式の取材を予定しています。